

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 2 月 26 日

事業所名 放課後等デイサービス HOORAY

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			天井を高くするか、緩衝性を高めるかについて考慮する必要が、利用児童が成長してくる数年後にはでてくると思われる。
	2	職員の配置数は適切である	100%			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	70%	30%		月一回の会議と、新案件が発生した場合のミーティングを実施している。月一回会議にて、前回の振り返りを盛り込むことで改善可能。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	20%		事業所独自の会報はないが、結果については公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	60%	40%		インスタグラムにて当施設の取り組み内容について外部へ発信していくことを開始しており、これが評価ツールのひとつにもなり得る。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	70%	30%		自発管のみならず、支援員からの気づき点を抽出してからのモニタリング。結果についてはラインワークスを利用して支援者全員で共有している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	70%	30%		フェイスシート含め、支援利用計画書・個別支援計画書について、支援者がいつでも閲覧して把握できるようにしている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	85%	15%		令和6年2月より、最終決定は責任者ではあるが、各支援員の意見を取り入れている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	85%	15%		同名の活動内容が月内に数回繰り返される場合もあるが、前回からの反省点・改善点を抽出したのち、ブラッシュアップした内容に変化させることに努めている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	40%	60%		長期休暇の課題については、平日よりも長い時間と具体性を持って、同日のうちに2部・3部構成にするなど、学習結果の定着を図りたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	85%	15%		双方に融合性を持たせる計画については、児童個人の適正を明確にしてからの方が望ましいが、それらの把握不足は課題である。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	40%	60%		十分に時間を取れる日と、作業等により取れない日には差がある。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	50%	50%		打ち合わせはしていないが、ラインワークスを利用して報告相談など振り返りを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%				

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 2 月 26 日

事業所名 放課後等デイサービス HOORAY

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	100%			
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連 絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡)を適切に行っている	100%			
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	85%	15%		今のところ該当する児童はいないが、受け入れ前には 保護者とのすり合わせを行い、連絡網を作る。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	70%	30%		同市・隣市にある支援事業所とは情報の受け取り、発信を 行っている。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行 する場合、それまでの支援内容等の情報を 提供する等している	100%			
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研 修を受けている	100%			
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	15%	85%		現状、機会は持っていない。施設間の情報共有の体制 づくりが課題。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	50%	50%		毎年5月・10月に開かれる、同市のインクルーシブイベン トにボランティア参加をしている。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	100%			
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	40%	60%		ペアレント・トレーニングについての支援員の知識・意識向上 が先決課題となる。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	100%			
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相 談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っ ている	100%			
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	65%	35%		年に2回の保護者会、月1回の開放日、施設見学や 支援員と対話する機会を設けている。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	100%			
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	100%			
35 個人情報に十分注意している	100%				

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 2 月 26 日

事業所名 放課後等デイサービス HOORAY

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	40%	60%		計画の段階ではあるが、児童の制作物を販売していくことで地域との交流を持ち、開かれた施設づくりを目指している。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	85%	15%		月間活動において災害等への啓発を盛り込んである月間を設けている。避難訓練において経路や避難場所について実際に移動することによって児童に伝えている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	65%	35%		台所・事務所に、利用児童のアレルギー情報を一覧表にして掲げている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	85%	15%		作成してファイリングしている。事象が発生してから事例集に加えるまでの迅速性が課題。